沖縄の保育者延2,300名との面談から見えた

中推印事例



熱のない子どもを散歩に連れて行った先で、 熱性痙攣が起きてしまった。保育士も子どもたちも、 とても不安な気持ちで過ごすことになった。

普段は、咀嚼やマナーにも問題なく食事をしている 子どもが、急に果物を喉につめてしまい、救急車を 呼ぶことになった。

新人の保育士が見ていた場面で、子どもが遊具から 落ちてしまい、病院搬送された。事実確認ができない ままに、保育士は退職、子どもは退園に至った。

ヒヤリハットや事故報告書に記録し、会議や研修も定 期的に行っているが、似たような怪我や事故が起きる。 保育室がピリピリしているように感じることが多い。

避難訓練を簡易的にしていたことに気がつき、 経路を確認したところ、鍵が開かなくなっていた。 このまま気付かなかったら…と思うと、ゾッとした。

発達に課題がある子だと思い、チームで連携しなが ら関わっていたが、実は医療的に支援が必要である ことを後から知った。

子ども主体の保育に切り替わり、保育内容は充実し てきたが、その反面、安全管理や保護者支援が疎かに なっているような気がして、不安な気持ちが多い。

保育士が辞めてしまう原因の一つは 「保育をすることが怖い」から。 小さな不安が、大きな問題となり 不満や離職につながっていきます。

コンサルタント

岩井 沙弥花

6月末まで限定!

保育施設の安全管理・マネジメントに関する相談窓口を 無料開設しております。(30分) お気軽にお問い合わせください。

TEL / 098-975-5969 Mail / hoiku@creative-consent.jp

YouTube











CREATIVE CONSENT, inc.

TEL / 098-975-5969 Mail/hoiku@creative-consent.jp 那覇市牧志2丁目6-34 たからビル4階